

話 題 (VI)

研究会「工学的見地からの核反応モデル」

標記研究会が1991年12月17日、18日の両日、東京大学原子核研究所で行われた。以下に研究会のプログラムを示す。本研究会の報文集は雑誌「原子核研究」36号、No.6として出版される予定である。

プログラム

場所： 東京大学原子核研究所第2会議室

12月17日

はじめに (10分)	柴田 徳思 (INS)
連続スペクトル粒子放出を扱う核反応モデル (60分)	的場 優 (九大工)
核反応のクラスターの取扱い (60分)	堀内 昶 (京大理)
重イオン反応のシュミレーション (60分)	仁井田 浩二 (原研)
重イオンによる中性子生成 (60分)	秦 和夫 (京大工)
コアレッスンスモデル (30分)	柴田 徳思 (INS)

12月18日

核破碎コードの構造と核および核子データの問題点 (60分)	中原 康明 (原研)
前平衡過程を取り入れたHETC (60分)	石橋 健二 (九大工)
QFS + Exciton Model + Evaporation Model による (p, Xn) 反応の計算 (60分)	岸田 則生 (CRC)
500 MeV 陽子照射による鉛体系内生成核種分布 (60分)	高田 弘 (原研)
計算コードFLUKAについて (30分)	伴 秀一 (高工研)
HETCとANISN (30分)	上養 義明 (INS)
高エネルギー中性子の線質係数 (30分)	岩井 敏 (MAPI)